

研修親睦旅行 富岡製糸場・信州上田城

平成27年9月12日(土)~13日(日)

INDEX

研修旅行	1~2
臼井先生連載/本音トーク	2
特別座談会	3~5
初期の頃の会報つきぼしを 振り返る!	6~7
例会委員会報告/お知らせ	8
スケジュール/編集後記	8

歴史を学んだ心地よき二日間



月星会のメンバーになり初めての親睦旅行。とにかく「呑む」旅行だと事前に何っていましたが、本当に出発と同時に乾杯が始まりました。事情により木内親睦委員長が欠席となるも、代わって奥様をご参加くださいました。

臼井先生を含むメンバー 20名+ビジター2名の皆さんで、いざ出発。

1日目の目的地は世界遺産になったばかりの富岡製糸場。道中の渋滞のため予定より少し遅れてたどり着いたのはまず田島弥平旧宅。養蚕で財を成したという当時の様子を思い浮かべながら屋敷や蔵の様子を見学しました。昼食を挟んでいよいよ富岡製糸場へ。

世界遺産登録で観光客が増え、土産物店も多数軒を連ね

ていました。工場内部は明治の産業革命期の浪漫を感じる機械の数々。建物もすばらしい風情でした。

別所温泉の宿に着き、付近の散策や温泉を堪能して、宴会に突入。大ジャンケン大会やカラオケ大会から二次会へと、夜更けまで宴は続きます。

2日目は信州上田城へ。来年の大河ドラマの舞台として注目の場所ですが、まだ混雑はなく、ゆっくりと見学できました。桜の名所でもあるそうで、来年の春はきっとすごい人になるのでしょう。次いで真田氏歴史館、懐古園と見学しました。実はこの辺りも養蚕が盛んで、「蚕都上田」と呼ばれ民間の財力により町の様々な施設が作られた歴史があるとか。大河だけを理由に目的地に選ばれたのかと思いき

や1日目と共通点があり、驚きました。

2日間の旅を満喫し、一路千葉へ。飲み切れないほどのお酒を友にピンゴ大会に燃えているうちに、予定より少し早い時刻の順調な帰着となりました。(先輩がたは降車後にまだ夜の街に旅立たれたようでしたが…)

今回の親睦旅行では、多数のご協賛をいただきました。林威樹様、産方恒好様、尾形文貴様、木内一晴様、岩田代三

様、鷲見隆仁様、長谷川洋様、川名利夫様、穴倉龍子様、早野暉様、片野洋子様、竹口満代様、高柳啓一様(順不同)、本当にありがとうございました。

最後に、木内親睦委員長の奥様には急遽代理でご参加いただいたにも関わらず、細やかに気を配っていただき2日間大変にお世話になりました。この場をお借りして御礼申し上げます。(広報委員長 森本哲郎記)

連載

うすい日出男の
〈こくせいふかん〉の目

安倍首相に望むもの

自民党総裁選挙は、安倍首相の無投票再選で決着がついた。新しい日本づくりのための「安全保障法案」がまさに成立するかどうかという決定的な時が迫っていたタイミングに、無投票再選は当然だ。

対抗馬で出馬を画策していた野田聖子議員も結局は推薦人の20名さえ揃わずに敗北した。曰く「政権政党で、総裁選挙が無投票ということはあってはならない」と。しかし、その言葉は有権者である国民の言う言葉であって、立候補者本人が言う言葉ではない。総裁選挙で一番大切なのは、立候補者が何を指すのか、そして本人の資質である。

私は安倍首相が、近代まれに見る改革推進のリーダーであると思う。本年は戦後70年の記念すべき年だが、安倍首相は戦後70年で初めての改革を続けて二つ実現した。その一つは憲法改正のための手続法の成立だ。憲法改正のためには、国民投票のシステムはなければならないが、長い間、この手続法さえなかったのを安倍首相はみごとに作り上げた。第二に「戦後初めて教育基本法の改正」を成し遂げたことだ。この改正で日本国民がかんずく青少年に愛国心と武道を中学1、2年生に正式科目とするとともに道徳を正式科目とした。そして、安全

保障法案の成立によって、中国の国防力の急激な拡張に対し、我が国の確固たる防衛の意識を示した。首相就任当初から宣言していた経済の再生と〈三本の矢政策〉も順調に進展している。

いま安倍首相に期待するものは、日本人に誇りと自信を取り戻すことだ。以前にも話したことがあるが、

BBC放送が世界の主要国に対し、どれくらい国際貢献したかのアンケート調査をしているが、その中で、いかなる国民でも、自分の国は貢献していると80%以上が信じているが、唯一の例外が日本で、15%の人々しか日本の国の国際貢献を信じていない。なんとも寂しい話ではないか。

国会では会期末に向けて与野党の攻防が激しさを増していたが、日本周辺の安全保障の劇的な悪化を現実のものとして、自衛隊の即応性を高め、切れ目ない安保の実施のためにも、絶対に成立をさせねばならない法案であったし、安倍首相でなければ、実現できなかった。

安倍首相には、日本が“敗戦国日本”から“誇りある普通の国”になるために、さらに頑張ってもらいたい。一日も早く「日本は最も国際貢献している」と自信をもって国民が発言できるように指導力を発揮してもらいたい。

元衆議院議員 白井日出男



会員さんの日常本音トークあれこれ

木下英之さんの「女性の時代」の話

ランチタイム、何かのはずみでちょこっと洒落た店に足を踏み入れる……どこもかしこもお金持ちそうなマダムのお団体様。ちょっと気恥ずかしくなりますネ。

旦那は今頃、コンビニ弁当かワンコインランチかなあ？

「女性が活躍できる社会」に間違いなくつつあります。弊社も男性社員こそ定着しませんが、主婦のパートさんが8名ほどいます。家事をパーフェクトにこなしつつ、早朝から夜遅くまで、気を使い身体を使い、葬儀の現場で活躍してくれます。

また自分の身体一つで独立。司会業や「おくりびと」業を

行う女性達と一緒に仕事をしているとそのエネルギーに頭が下がるばかりです。

「女、子供は黙ってろ」の時代はとっくに終わって、まさに「女、子供の時代」なのかもしれませんネ。

どうも男というのはチマチマしていきけません。これからの時代を生き抜くため、いっそのこと流行りの「オネエ」にでもなろうかしら？

『どんだけ〜』雑文失礼
m(_ _)m



葬儀部門10周年にあたり、手作りの感謝状を女性パートさんから授与されました。

月星会は「女性が輝く社会」をリードする！



出席女性会員（順不同・敬称略）

小野成子 桐谷美千子 再名生文江
穴倉龍子 志村美知子 林 理智子

オブザーバー 岩田代三相談役

スペシャルゲスト 臼井日出男先生

進行・写真 森本哲郎広報委員長
司会 奥平 恵

現安倍政権が誕生して以来、「女性が輝く社会の実現」というフレーズが頻りにメディアに登場するようになりました。安倍政権の看板政策の一つですし、成長戦略に不可欠の要素ですから、これは必然の成り行きです。

8月28日には、女性活躍推進法(正式名称は「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」)も成立しています。

月星会でも昨年度、地域で活躍する女性経営者を夕食例会の卓話に招き、その輝きぶりをみんなで拝聴しました。

では、わが月星会の女性会員たちはどうなのでしょう。もちろん、輝いています。皆、経営者ですから千葉の地域経済のために、生活者のために、それぞれの得意領域で役割を担い続けているのです。

何よりも、女性会員の皆さんは元気です。仕事も大切にしている一方、遊びも大好きな人たち。広報委員会では会報100号を記念して、そんな女性会員の皆さんにお集まりいただき、自由闊達に「女性会員にとっての月星会」を語っていただきました。

存在感のある女性陣

司会 以前、臼井先生に月星会の特徴を伺ったときに、女性会員が多いという点をあげていました。

臼井 代議士時代から様々な会に顔を出させてもらっていますが、他の会と比べると多いですね。多いだけじゃなくて、それぞれが個性を発揮しています。だから、名前と顔がちやんと一致するんです。

司会 存在感があるわけですね。

臼井 もう一つ、月星会の特徴として親子で会員になっているケースもあげられます。女性が多いことと親子の参加、この二つの特徴はほかの会では見られません。

司会 女性会員は立ち上げのときから多かったのですか？

臼井 いや立ち上げのときはいなかったかな。

岩田 末續さんが一番早かったんじゃないかな（編注：チャーターメンバー）。末續さんの努力で、そのあと戸村さんとか片山さんなど、どんどん入ってきて…。

再名生 私は、先生の選挙のお手伝いをしなきゃというので誘われて入会したんですが、お手伝いを通してすごく勉強になったし、先生のお人柄もわかって。

穴倉 そう、先生の人柄に魅せられて私たち女性会員がどんどん入ってきたわけです。（笑）

再名生 だから選挙のお手伝いがとても楽しかったですよ。先生を守らなきゃという感じで女性陣は丸になってがんばってました。

志村 賑やかだった

ですし、楽しい雰囲気でした。

穴倉 私は平成7年に入会したんですけど、同じ町内会（検見川）だったので先生のお人柄はもちろん、お母様からお仲間までよく存じ上げていました。それで月星会に誘われてすぐに入りました。ラ・リユーを開店して2年目で、皆さんよく飲みに来てくれました。

司会 女性会員の方々も？

穴倉 はい。末續さんと片山さんなどはよく来られました。ワイワイ楽しい雰囲気です。

林 私は平成9年の入会ですが、確かにみんなよく飲んでいましたね。毎日のように。

司会 毎日のように？

林 はい。（笑）



穴倉 当時、スナックのママや小料理屋の女将さんも入会していましたからね。

岩田 新貝さんが会長だった頃に、そういう方々をどんどん勧誘されたんです。(笑)

臼井 会長さんの魅力、吸引力というのは、会に大きな影響を及ぼすものですが、新貝さんは月星会の一時代を築いた人だったと思います。

穴倉 お酒と女性が好きな会長でした。(笑)

女性部会が設置された時代も

司会 ところで、月星会は千葉の中小企業家同友会の有志が集って作った勉強会が始まりですが、同友会には女性部会というのがありません。その同友会に倣ったのでしょうか、月星会にも女性部会が設置された時期もありましたね。発足したのは平成7年度で、初代部会長が末續さんだったと会報に記録されています。

穴倉 私も戸村さんの後を引き継いで女性部会長をやったような気がします。同友会のことは存知ませんが。

林 私は同友会に女性部会の話が出たとき、反対したんですよ。同友会というのは経営者同士の勉強会で、その趣旨からいって男も女もないんじゃないのって。男性と女性を分けたらあまり勉強にならないと思いましたから。でも、月星会の女性部会はよかったと思います。とにかく楽しかったです。本当によく飲んで語って、騒ぎました。

小野 確かに同友会に女性部会ができる前、林さんが言ったように男性と女性を分けるのはおかしいという意見がありました。でも、女性経営者の人数も多くなってきて、女性は女性として活躍できる場もあるんじゃないかということで発足して、私も女性部会に入ったのですが、それはそれでいいんじゃないかと思います。月星会に女性部会ができたのもよかったんじゃないですか。

司会 女性会員がいるのに女性の居場所というか、活躍の場がないという経営者の会も結構ありますからね。

楽しい雰囲気をつくる女性陣

司会 会報11号で女性部会初代会長の末續さんがメッセー



ジを述べていますが、昔の会報を読んでいると、臼井先生ご夫妻を囲む会とか家族ぐるみの行事とか、女性陣が中心になってとても良い雰囲気の行事を行っていますね。

岩田 春の宴なんかは穴倉さんを中心にいろいろとお膳立てしてくれて、それぞれの子供や孫も一緒になって楽しめたことをよく覚えています。

穴倉 子供同士で遊べるように、小道具をいろいろ考えて作ってきたりしましたね。でも、そんな大した手間ではなかったですよ。

岩田 でも、あのような家族ぐるみの行事で我々男性会員は、女性ならではの感性や動き方を感じたと思います。次回も孫を連れていこうと楽しみにになりましたから。

臼井 月星会の女性の皆さんというのは、おだてるわけじゃないけれど、とても積極性があると感じています。ただ会合に出るだけじゃなくて、役職に就くなど役割を与えると自ら動きますからね。行事への出席率も高いし、すぐに溶け込んで顔なじみが増えるし、という具合でとても良い回転をしていると思います。

司会 一歩引いたり、遠慮したりといったところはないですね。

臼井 冗談が通じる!(一同爆笑)

再名生 それがいちばんいいですね。でも、それって男性の皆さんがいるから安心するという面もあると思います。女性だけだとだらけちゃうようなところもありますから。

司会 先ほど選挙のお手伝い楽しいという話が出ましたが、それも安心しながら遠慮せずに自らどんどんやることはやるということだから楽しいのでしょうか。

志村 そんな感じでいろいろやっていると本当に楽しくなれます。みんながみんな自主的に動いて。

再名生 忙しかったけど、楽しかった。あのときは、女性陣が一丸になって動き回りました。

林 女性同士の一体感がありましたね。団結力というか。

臼井 心強かったですね。事務所とは別に、別動隊でやってくれましたから。

穴倉 女性陣みんな、先生に愛情があるんですよ。(笑)

志村 そうそう。どちらかというと、党とか政治信条とかじゃなくて、月星会の大切な仲間が候補しているのだから応援しようという感覚でした。

司会 みんな普段着で楽しく応援していたんですね。

小野 選挙のときだったと思いますが、穴倉さんに用事が



あってラ・リューに行ったとき女性の皆さんが楽しそうに飲んでいるんですよ。そのときはまだ月星会に入っていなかったんですが、飲んでいるみんなに誘われたんですよ。月星会に入らないって。で、それなら私は入ったのです。本当に楽しそうだったから。

林 あの頃はみんな若かったし。(笑)

再名生 今だって若いでしょ。磨きがかかって。(笑)

生き生き、堂々と行動する女性たち

司会 月星女性陣に共通する特徴について、臼井先生から積極性があるという点が一つありました。ほかにはどういう特徴があると思いますか。このへんでまとめておきましょう。

臼井 積極性に関連しますが、あまり緊張しない(笑)、いつも堂々としているという点も言っておきましょう。

岩田 まあ、みんな緊張感を持って勉強という段階は過ぎていく面もあるんじゃないですか。ここでは、桐谷さんくらいじゃない？ 一生懸命に勉強中というのは。

司会 緊張感とはもかく、勉強自体は生涯でしょうね。再名生さんは今、法政大学の学生？

再名生 通信制の学生です。目下、一所懸命に卒論を書いているところです。卒論が終われば、もう少し月星会の行事にも参加できると思います。

桐谷 月星会の活動は勉強になっています。部会(委員会)に入って毎回ちゃんと出席すると、本当に勉強になります。みんなきっちり議論してちょっと驚いたこともあります。どうしようと。適当なところで妥協せずに、最後まで自分の意見を言うし、とことん話し合うという感じで。



志村 思ったことはどんどん言いますからね。男だからとか女だからというのは関係なく。

司会 とくに女性は…と付け加えたいところですが。

志村 月星の女性は強いと思いますよ。

司会 いろいろな経営者同士の交流会があるなかで、女性会員の居場所や役割があって遠慮なく活動している会はそう多くはないと思うのですが、月星会はその一つではないかと私も実感しています。

臼井 あっ、前言を少し訂正します。堂々としているというより、生き生きしていると言ったほうがいいね。(笑)

岩田 生き生きしていると思います。それは、時の会長を中心にそのように持っているのだと思います。女性の立場を尊重しているんですよ。

司会 女性だから持ちあげておこうという感じではなく尊重するという意味ですね。

人との接点を大事にし続けたい

穴倉 私の親の世代は、女性は三歩下がって前に出るなという時代でした。母親がそうでしたし、私もその背中を見て育ってきました。そんな私が月星の会長をやらせてもらったわけですが、引き受けるとき「そんな私が会長をやっているんですか」と言ったのを覚えています。でも、やりました。そのとき、「自分の心を持って行けるならやろう」と決めていたのです。勉強も必要ですよ。努力も必要です。人の上に立つということは。

司会 男性陣に持ちあげられているようじゃだめだということですね。

志村 穴倉さんは進歩的ですよ。

穴倉 私は「人の輪」を大切にしたいと思っているのです。仕事においてはとくに。人の輪がなければ仕事はできません。輪があつて、みんなと協力して仕事を成功させていくものだ。それに人の輪があれば、心が和むし、楽しいじゃないですか。輪に入ってくれた人って、いろいろな話題やお誘いを運んでくれますからね。だから楽しいし、お友達もいっぱいできます。

林 そう！ 仕事でもなんでも楽しくなければ続きません。月星会も、私自身は楽しいから続いているのです。男性がいるから楽しい。月星会に入ってからボーイフレンドがいっぱいできました。(笑)



志村 仕事って、人との接点で成り立っていると思うんです。人の接点があるから楽しいし、自分が育てられていく。私はお客様や周りの人に育てられながら仕事を続けられているといつも思っています。月星会もその一つの場合です。

再名生 人との接点があると、必然的に身の回りを小綺麗にします。小綺麗にするとハッピーな気分になる。力も湧く。これって、人間のエネルギー源なんだと思います。月星の女性はみんな綺麗です。(笑)

桐谷 税理士として女性の起業に多く関わっていますが、趣味の延長で起業するケースが8割ぐらいです。で、結局2、3年でやめてしまう。不転の決意で本腰を入れてやる人は少ないのです。今日の皆さんの話を聞いて、そういう人たちに皆さんを会わせたいと思いました。

司会 最後にいい話をさせていただきました。本日はありがとうございました。

初期の頃の会報つきぼしを振り返る！

苦労もあったけど、仲間で作る楽しみも…

会報つきぼしのバックナンバーは月星会の歴史です。見ると、「そうだ、あの時はこうだった！」「こんなこともあったなあ」と、懐かしさがこみ上げてきます。

100号の節目に、創刊号はどんな記事だったのか、初期の頃はどなたがどんなふうに使っていたのか、会員の皆さまに代わって広報委員会が振り返ってみました。

懐かしき創刊号

創刊号は、どんな記事で構成されていたのでしょうか。

発行日は、1993年(平成5年)7月3日でした。ちなみに、この頃の会の名称はまだ「うすい月星会」で、現在の「月星会」に改称したのは2001年です。

創刊号のトップ記事は、新貝孝逸会長(当時。以下、故人も含めて肩書きはすべて当該号の刊行当時のものとします)の「ごあいさつ」でした。一部を抜粋します。

〈顧みますと、鶴川前会長より2年前に会長を仰せつかり、重責ではありましたが、『人の和』を中心課題に掲げて行動してまいりました。

活動報告にございますように、会勢も拡大し、活動の基盤整備も徐々にではありますが確立してまいりました。臼井代議士のご協力のもと、中央官庁より講師を派遣していただく研修会とともに、昨年10月より開催しております朝食例会も大変な反響を頂戴し、私自身、たいへん意を強くしております。)

この頃の活動テーマは「人の和」でした。これは、今日の活動にも流れる当会の基本テーマといえるのではないのでしょうか。

2面と3面は定時総会の記事で、出席された会員の中から、千葉ファイリングの内田厚二社長、明和自動車工業の末續良江社長、ワシントン警備保障の中藺俊光社長の3人が感想文などを寄稿しています。

3面の下段には、「ご質問お答え箱」というユニークなコラム欄もあり、〈うすい月星会に対するご質問などにお答えするスペースです。何でも構いませんので、事務局気付でご投稿をお願いします〉と付記されています。発足して間もないからしい連載記事ですね。

創刊号では3つの質問が掲載されていますが、一つだけ紹介しておきましょう。

〈Q この会に入ると知り合いが沢山できるって本当で



すか？

A 本当です。いろいろな企画で会活動が為されますが、どんな時にも知り合うための時間や懇親の場が設定されます。隣の人に積極的に声を掛けてみてはいかがでしょうか。必ず好意的に対応してくれるはずですよ。

まさに「人の和」、そして「人の輪」でもありますね。

4面上段には、臼井日出男先生の「我が熱き思い」と題する連載記事の1回目が掲載されています。「自民党の本質は多数連合です」「内閣不信任案に反対した訳は」の二つの小見出しで構成された本文のあと、国会議員としての決意が数行で述べられていました。

〈私は、議員としての13年間、常に政治改革・党改革に真剣に取り組んできたと自信を持って言えます。今後は、海部俊樹前総理を中心に発足した「新政治改革推進議員連盟」の世話人として、目的を達成したいと考えております。)

創刊号の発行人は、山本康昭総務担当副会長(編集発行責任者)、編集人は栗原勇広報委員長でした。

発行費用を広告で賄った号も

創刊号は、現在と同じ4ページ構成でしたが、2号は8ページ、さらに4号の平成6年新春号は10ページに増えています。といっても、実は増ページされている面の大半は名刺広告で埋まっているのです。

名刺広告は1ページ最大24社。初めての広告掲載号である3号のケースで3ページ半、78社が出稿しています。その後、広告は新春号の賀詞広告のみに特化されましたが、100社を超えている号もあります。

出稿料は、1スペースにつき1万円。この広告収入で発行費用を賄っていた時代もあったのです。

もちろん、1万円といえども出稿してくれる会社を集めるのは決して容易ではありません。黙って待っているだけでは集まりませんから。

この広告募集で、当時の編集人である栗原委員長などが大活躍されたという話も伝わってきております。

原稿集めや紙面の制作だけでも容易ではないのに、広告の営業活動までしなければならぬとは……。当時の編集・発行クルーはさぞかし大変だったと思います。

しかし、この初期の頃のご苦労があったからこそ今日まで100号も続いているのですね。頭が下がります。

第2号の編集後記に、発行人の山本副会長がしっかり謝辞を述べています。

〈今回、会報つきぼし発行の財源確保の意味も兼ねまして、残暑お見舞いの企業広告の協力を呼びかけさせていただきましたところ、多くの会員企業の方々にご賛同頂きました。誠にありがとうございました。(山本)〉

編集後記を拾い読む

最終面に「編集後記」が登場したのは、この2号からです。編集後記は、編集・発行に従事したスタッフが自由に「思い」を吐露する巻末記事ですが、一般に読率が高いものです。特に会員誌・紙は書き手の顔が浮かぶので、結構読まれるようです。

初期の頃の編集後記を拾い読みしてみましょう（紙面の都合上、前後の文は省略します。……は中略）。

〈現在、広報委員会は総務部会の山本部長の下で広報活動をしております。委員長の私栗原、阿佐氏、金田氏、御園氏の4名です。皆さん、私共と一緒に会報作りに参加しませんか。投稿大歓迎です。スタッフも募集しております。(3号、栗原)〉

〈広報委員というのは黒子のような存在だと思います。……紙面は見えるけれど紙面を操っている者の存在は意識されないのです。ところが、編集後記の欄だけは別で、黒子が顔を見せたようなものです。というわけでして、さてご

挨拶という段になると紙面がなくなってしまうのです。うまい仕掛けになっているものです。(4号、金田)〉

〈「編集後記、お前が書け！」と言われ、月星会との接点がまた一つ出来たと内心笑みを浮かべた次第です。選挙に、研修旅行に、ゴルフにと何かの形で月星会と繋がりを持つことは、小生のみならず会員の皆さんの喜びであろうと思います。この会報をご覧になり、「まだ接点が足りない」と思われた方は、広報委員会までご連絡下さい。フルコースで“接点”をご用意させていただきます。(5号、御園)〉

〈次号は、正月発行の新年特集号です。栗原広報部会長の腕の見せ所でもあります。昨年は年2回だった協賛広告ですが、今年は新年号だけになりました。広告収入に依存している『会報つきぼし』のために、皆さまのご協力ご支援を切にお願いいたします。(8号、阿佐)〉

〈今回も行事予定を見合わせながらの紙面作り。今日、プリントピア阿佐社長からFAX(真夜中1時30分)。大至急グラブリチェックとのこと。今朝、TELで打ち合わせ、これで80%安心!!(12号、栗原)〉

第17号からしばらくは、編集後記のスタイルが少し変わり、広報委員全員による1行メッセージになりました。1行でもいいから、広報委員みんなが参加して発行する！素敵な発想ですね。

ユニークな後記が沢山あり、すべて拾ってお見せしたいところですが、数人のみ紹介します。

◆会員の色彩を限られた紙面にたっぷり綾なし、皆さんが次号を臍首して待つ、そんな記事にしたい。(17号、鶴川)

◆広報の編集委員の方々との楽しい集いが面白い紙面を創る基本か？今年もどうぞご期待。(18号、ゆきお)

◆月星会の1年生です。お手やわらかにご指導ください。(19号、片野)

◆梅雨明け、さあーいよいよ夏だと思ったら少々バテぎみ。冷たいビールでも飲もう。(19号、川名)

◆嵯峨の食事に釣られて初参加。広報の仕事、結構大変。だまされた。でも、次回も参加予定。(20号、岩田)

◆初夢は月星コンペの優勝杯!!このカップになみなみと注いだ希みをゆっくり飲み干したいです。(21号、林)

◆「西伊豆に ふれあう命 輝ける」親睦部会さん、ありがとう！(24号、藤原)

◆みんなで創りあげる月星会。その手始めが会報作り？今号編集担当の皆さん、ご苦労様でした。(24号、阿佐)

読んでいるとくっばえびせんのように、やめられないとまらない状態に陥ります。そして、あっという間に予定の紙面が尽きてしまいました。会報っていいですね。またの機会に、バックナンバー続編ができればと思います。

例会委員会報告

7月例会 平成27年7月23日(木)

於：鮎割烹みどり

7月の夕食例会は、社会保険労務士法人ハーモニーの森本哲郎会員（広報委員長）による、マイナンバー制度についての卓話でした。

マイナンバー制度が実際にどのように私たちの普段の業務に影響してくるのか。まずはきちんと従業員にマイナンバーカードを受け取らせ、提出させるところから。社内での周知に必要な書類のサンプル等も含めた、非常に充実した資料をもとに、最低限やらなければいけないことをわかりやすく解説いただきました。

会員それぞれの実情に応じて多岐にわたる質問が出て、参加者の関心の高さを窺わせました。

7月の例会の参加者は会員25名ビジター3名でした。



8月例会 平成27年8月27日(木)

於：鮎割烹みどり

8月の夕食例会は、スポーツドクターとしてご活躍の鍋島整形外科の鍋島和夫先生をお招きしたの卓話でした。

高齢者の介護の原因が運動器疾患が1位であること、運動をしない子供が増えていてこのままでは大変なことになるという危機感をお持ちで、部活偏重の学校教育を変えなければならない、成人・中高年の運動の受け皿として、ドイツをモデルにスポーツクラブの体系的な組織化を図らなければならないという主張に大いに頷かされました。

大学や地域スポーツクラブと連携したスポーツコミュニティづくり、スポーツ医学の市民への提供、スポーツ施設の拡充など貴重な提言を数多くいただきました。

8月例会の参加者は会員30名でした。
(7月、8月共、門山宏哲例会委員代理 門山事務所・石原裕久)



会員異動 新入会



河野 匡司

昭和44年6月20日生

血液型 O型 紹介者 岩田代三、岩田直人
事業所名 BS千葉本店 業種 リユース業
役職 代表
所在地 千葉市中央区都町1285-2
TEL.043-497-2468 FAX.043-497-2458
携帯電話 080-9216-9617

趣味：ドライブ 家族：妻 雅美、子 弥来・弥緒

研修委員会からのお知らせ

10月17日(土)、銚子・波崎で研修会を行います！

今年度の第1回研修会は、「地域創生・再生（地域おこし）」をテーマに、8月11日（火曜日、千葉商工会議所小会議室にて）、第2回研修会も同じテーマで9月8日（火曜日、場所は前回と同じ）に行いました。実はこの2回、10月17日(土)に予定している銚子・波崎での現地見学研修会の事前座学勉強会でした。

ある日、茂原市にある金融機関を訪問したところ、その銀行の役員さんが「30年後にこの町の人口は半分になるという予測が出ています。今の半分の人口で自社がやっていけるのか？ どうやったらやっていけるのか？」という話に。この問題は茂原市だけではなく千葉市でも同様です。

30年後、皆さんの会社はどのような姿になっているでしょうか？ 想像してください。想像が難しい？ それなら銚子と波崎の現状を見に行きましょう。銚子は打つ手が後手後手に回り、しかも行政と住民が手を取り協力することをせず、行きついたところの姿をしているとされています。

一方、波崎はその姿を反面教師として仲良く手を取り合っている姿だそうです。

地域の発展なくして、自社の繁栄があり得ないことはわかっている。頭ではわかっているも、その現状を自分の目で見て、実感することで、何か湧き上がってくるものがあるのではないのでしょうか！

地域の、そして自社の戦略会議をしませんか？ 10月17日(土)、会員皆様の参加お待ちしております。

この一連の研修会についての結果報告は、次号でまとめて行います。
(研修委員長 桐谷美千子)

10月～12月のスケジュール

10/ 2(金)	ゴルフコンペ ※10/2開催のゴルフコンペは悪天候のため延期になりました。開催日は後日ご連絡します。
10/ 7(水)	役員会 18:30開会 ホテル菜の花
10/17(土)	現地見学経営研修会 「町はなぜ変化していったのか ～ 銚子と波崎を考える～」 集合(予定) 千葉駅NTT前 8:30出発 参加費(予定) 会員 2,000円 ビジター 3,000円
10/22(木)	夕食例会 18:30開会 鮎割烹みどり 参加費 会員3,000円 ビジター 4,000円
11/ 4(水)	役員会 18:30開会 ホテル菜の花
11/ 7(土)	ボウリング大会 アサヒボウリングセンター 開会18:00 2ゲーム 終了後懇親会
11/26(木)	夕食例会 18:30開会 鮎割烹みどり 参加費 会員3,000円 ビジター 4,000円
12/ 2(水)	役員会 18:30開会 ホテル菜の花
12/16(水)	夕食例会(望年会) 18:30開会